

通商産業委員会議録 第四十三号

衆議院

通商産業委員会

通商産業委員会

通商産業委員会

通商産業委員会

(九六〇)

昭和二十七年五月二十九日(木曜日)

午後一時五十八分開議

出席委員

委員長代理理事

高木吉之助君

理事多武良哲三君

酒井山手 潤男君

阿左美廣治君

江田斗米吉君

神田 博君

小金 義辰君

土倉 宗明君

永井 要造君

高橋清治郎君

南 好雄君

中村 寅太君

横田 基太郎君

通商産業事務官

牛場 信彦君

出席政府委員

公正取引委員長 横田 正俊君

専門員 谷崎 明君

専門員 越田 清七君

委員外の出席者

加藤 錠造君

委員長

横田 基太郎君

通商産業事務官

牛場 信彦君

委員長代理

高木委員長

委員長

高木委員長

うのであります。第三條の第四号に
おきまして「公正な商慣習による輸
出取引であつて、政令で定めるもの」
といふふうに、非常に漠然と規定をし
てござりますが、これについて特にど
ういうふうな政令をお出しになるつも
りか、まず最初にお伺いをしておきた
いと思います。

○牛場政府委員 第二條第四号にどう
いふものを定めるかということであり
ますが、これはただいまのところ、さ
しあたり実例がちよつと思いつかない
のであります。将来の問題といいたし
ましても、たとえば非常な不當廉売、
いわゆるダンピングであります。こ
ういうふうなものが起きましたときに
は、このうちに入ると思います。また
リペート、これにつきましても最近
いろいろわざがござりますので、そ
ぞらよく実情を調べました上で、そ
ういうことがありましたら、やはりこ
れに入れて行きたいといふふうに考え
ております。

○山手委員 最近アメリカから輸入し
ております大豆などについて、国際的
的な大きな紛議が起きようといつてお
おるようですが、日本とアメリ
カの商社との間の契約によつて輸入を
された大豆が、契約で定めています
るという事実があるのです。それによ
る法律が私はきよらう各條文につ
いてお尋ねしておきたいと思います。
まず通産省の方にお尋ねをしたいと思
います。

○高木委員長 これより会議を開
きます。

委員長が所用のため、理事の私が委
員長の職務を行ひます。本日はまず輸
出取引法案を議題といたしまして、質
疑を続行いたします。

○山手委員 私はきよらう各條文につ
いてお尋ねしておきたいと思います。
まず通産省の方にお尋ねをしたいと思
います。

○牛場政府委員 この第十一條第一項
は、全部認めようという腹であります
かどうか、この規定が貿易組合法の規
定と比較して、比較的簡単に省略して
書いてあるのですが、御説明を
お願いいたします。

○牛場政府委員 この第十一條第一項
は、全部認めようという腹であります
かどうか、この規定が貿易組合法の規
定と比較して、比較的簡単に省略して
書いてあるのですが、御説明を
お願いいたします。

○牛場政府委員 これが戦前の貿易組合法に
とが考えられるのであります。業者が
本側がこういふことをやりますとい
うと、今度はこの法律にすぐひつかか
るわけでございますが、いかがですか。
あるいは通産省は日本側がアメリカに対
してどういう手段がとれるものか、あるいは通産省
はどういうふうにおやりになる御意思
であるかその点をお伺いしておきた
いと思います。

○牛場政府委員 大豆の輸入につきま
しては、現在業者間の私的な取引でや
つておりますので、クレームが起ります
ときは、まず業者間ににおいてこれ
を解決するよう努力するということ
になりますが、大豆の輸入につきま
しては、契約の條件が、たとえば検査を
揚場地やることになつておるか、積地
でやることになつておるか、そういう
点も調べまして、われーーといたしま
してもぜひ満足な解決が得られるよう
に努力いたしたいと思つております。

○山手委員 今後はそうしますと、こ
ういうような、不注意といふことでも
ないのですが、途中の輸送間の
いろいろな問題、あるいはちよつとし
たできごとで、そういうふうな事態が
起きた場合、これは日本側がやつた場
合は、当事者間では損害賠償をとられ
て、さらにこの法律によつて日本の業
者は懲役二年といふふうな刑を受け
るという事実があるのです。それによ
る法律と、日本側の実際にこの法律を
適用した場合の結果と、相当不均衡な
事態になるという、アメリカなんか

といふふうな立場といふものを考えてや
る心が、いかがですか。いかがですか。
たゞ問題になつたように、検査の問題
など、こういふことはこれができるこ
とになるわけであります。共同販売
に、著しく久く場合にのみこれにひつ
かかるわけであります。普通の一と
申しますか、故意に基かない、過失に
よる契約条件の違反でありますとか、
その他程度の軽いものは、ここまで
は、まだ業者間でできるわけでござ
いませんし、また當利を目的としない
組合が當利を目的としないといふこと
になつておりますので、當利を目的と
した共同販売はできないわけござ
いませんし、また當利を目的としない
販売につきましては、これは現在のと
ころでは、まだ事業者団体法の規制を
受けおりまして、現在国会で改正法
が、第十一條の第二号の「共通の利益
を増進するための施設」云々といふこ
とが書いてあるのですが、これ
は戦前の貿易組合法では、これがさら
に具体的に明らかに書かれてあつたよ
うに私は考えておりますが、實際には
どういうことまで輸出組合に認めよう
とされるのか。すなわち取扱い商品の
同施設のみならず、海外市場の共同調
査とか、あるいは共同による資金の運
営とか、あるいは共同による資金の運
営とか、あるいは共同による資金の運
営などはつきりしておいていただきた
いと思います。

それから第二十條の油占禁止法との
関係であります。第二十條の規定に
よりますと、輸出組合の業務、すなわ
ち今申し上げました第十一條の第一項
及び第二項のうち、その第二項のみは
油占禁止法及び事業者団体法の適用の
範囲外に第二十條でされておるのであ
ります。すなわちその仕向地の産業の
保護とか、あるいは利益を非常に害す
る場合とか、あるいは価格の変動の著

事態が出来来はしないか。こういふこ

とが考えられるのであります。業者が

本側がこういふことをやりますとい

うと、今度はこの法律にすぐひつかか

るわけでございますが、いかがですか。

たゞ問題になつたように、検査の問題

など、こういふことはこれができるこ

とになるわけであります。共同販売

に、著しく久く場合にのみこれにひつ

かかるわけであります。普通の一と

申しますか、故意に基かない、過失に

よる契約条件の違反でありますとか、

その他の軽いものは、ここまで

は、まだ業者間でできるわけでござ

いませんし、また當利を目的としない

組合が當利を目的としないといふこと

になつておりますので、當利を目的と

した共同販売はできないわけござ

いませんし、また當利を目的としない

販売につきましては、これは現在のと

ころでは、まだ事業者団体法の規制を

受けおりまして、現在国会で改正法

が審議中と思いますが、これが通りま

すればできることがあります。現在

のところではまだできない、と思いま

す。

○山手委員 その辺のところ、もう少
し早く、どの程度まで認めるのかを後
ほどはつきりさせておいていただきた
いと思います。

それから第二十條の油占禁止法との
関係であります。第二十條の規定に
によりますと、輸出組合の業務、すなわ
ち今申し上げました第一項の第一項
及び第二項のうち、その第二項のみは
油占禁止法及び事業者団体法の適用の
範囲外に第二十條でされておるのであ
ります。すなわちその仕向地の産業の
保護とか、あるいは利益を非常に害す
る場合とか、あるいは価格の変動の著

事態が出来来はしないか。こういふこ

とが考えられるのであります。業者が

本側がこういふことをやりますとい

うと、今度はこの法律にすぐひつかか

るわけでございますが、いかがですか。

たゞ問題になつたように、検査の問題

など、こういふことはこれができるこ

とになるわけであります。共同販売

に、著しく久く場合にのみこれにひつ

かかるわけであります。普通の一と

申しますか、故意に基かない、過失に

よる契約条件の違反でありますとか、

その他の軽いものは、ここまで

は、まだ業者間でできるわけでござ

いませんし、また當利を目的としない

組合が當利を目的としないといふこと

になつておりますので、當利を目的と

した共同販売はできないわけござ

いませんし、また當利を目的としない

販売につきましては、これは現在のと

ころでは、まだ事業者団体法の規制を

受けおりまして、現在国会で改正法

が審議中と思いますが、これが通りま

すればできることがあります。現在

のところではまだできない、と思いま

す。

○山手委員 その辺のところ、もう少
し早く、どの程度まで認めるのかを後
ほどはつきりさせておいていただきた
いと思います。

それから第二十條の油占禁止法との
関係であります。第二十條の規定に
によりますと、輸出組合の業務、すなわ
ち今申し上げました第一項の第一項
及び第二項のうち、その第二項のみは
油占禁止法及び事業者団体法の適用の
範囲外に第二十條でされておるのであ
ります。すなわちその仕向地の産業の
保護とか、あるいは利益を非常に害す
る場合とか、あるいは価格の変動の著

事態が出来来はしないか。こういふこ

とが考えられるのであります。業者が

本側がこういふことをやりますとい

うと、今度はこの法律にすぐひつかか

るわけでございますが、いかがですか。

たゞ問題になつたように、検査の問題

など、こういふことはこれができるこ

とになるわけであります。共同販売

に、著しく久く場合にのみこれにひつ

かかるわけであります。普通の一と

申しますか、故意に基かない、過失に

よる契約条件の違反でありますとか、

その他の軽いものは、ここまで

は、まだ業者間でできるわけでござ

いませんし、また當利を目的としない

組合が當利を目的としないといふこと

になつておりますので、當利を目的と

した共同販売はできないわけござ

いませんし、また當利を目的としない

販売につきましては、これは現在のと

ころでは、まだ事業者団体法の規制を

受けおりまして、現在国会で改正法

が審議中と思いますが、これが通りま

すればできることがあります。現在

のところではまだできない、と思いま

す。

○山手委員 その辺のところ、もう少
し早く、どの程度まで認めるのかを後
ほどはつきりさせておいていただきた
いと思います。

それから第二十條の油占禁止法との
関係であります。第二十條の規定に
によりますと、輸出組合の業務、すなわ
ち今申し上げました第一項の第一項
及び第二項のうち、その第二項のみは
油占禁止法及び事業者団体法の適用の
範囲外に第二十條でされておるのであ
ります。すなわちその仕向地の産業の
保護とか、あるいは利益を非常に害す
る場合とか、あるいは価格の変動の著

事態が出来来はしないか。こういふこ

とが考えられるのであります。業者が

本側がこういふことをやりますとい

うと、今度はこの法律にすぐひつかか

るわけでございますが、いかがですか。

たゞ問題になつたように、検査の問題

など、こういふことはこれができるこ

とになるわけであります。共同販売

に、著しく久く場合にのみこれにひつ

かかるわけであります。普通の一と

申しますか、故意に基かない、過失に

よる契約条件の違反でありますとか、

その他の軽いものは、ここまで

は、まだ業者間でできるわけでござ

いませんし、また當利を目的としない

組合が當利を目的としないといふこと

になつておりますので、當利を目的と

した共同販売はできないわけござ

いませんし、また當利を目的としない

販売につきましては、これは現在のと

ころでは、まだ事業者団体法の規制を

受けおりまして、現在国会で改正法

が審議中と思いますが、これが通りま

すればできることがあります。現在

のところではまだできない、と思いま

す。

○山手委員 その辺のところ、もう少
し早く、どの程度まで認めるのかを後
ほどはつきりさせておいていただきた
いと思います。

それから第二十條の油占禁止法との
関係であります。第二十條の規定に
によりますと、輸出組合の業務、すなわ
ち今申し上げました第一項の第一項
及び第二項のうち、その第二項のみは
油占禁止法及び事業者団体法の適用の
範囲外に第二十條でされておるのであ
ります。すなわちその仕向地の産業の
保護とか、あるいは利益を非常に害す
る場合とか、あるいは価格の変動の著

事態が出来来はしないか。こういふこ

とが考えられるのであります。業者が

本側がこういふことをやりますとい

うと、今度はこの法律にすぐひつかか

るわけでございますが、いかがですか。

たゞ問題になつたように、検査の問題

しい場合でありますとか、あるいは買手袖占が行われておるようなところに対する第五條の場合のほかは、第十一條第一号のいわゆる不公正なる輸出取引の防止については、袖占禁止法の規定が排除されることがないようになりますが、十條でなつておるのあります。これは私は今の局長の解釈のよくなかった狭く解釈されておるというようなことにでもなりますれば、ひつかりが起きて来る。やはり第十一條第二項の規定をはずしておくるでなしに、第一項も袖占禁止法を排除するような規定にしておかなければ不自然、不合理ができて来ると思いますが、いかがでしょうか。

○牛場政府委員 この立案は、法案の立案にあたりましたが、公正取引委員会の方ともきわめて慎重に相談いたしましたのでござりますが、結局この第十一條第一項第一号「輸出業者の不公平な輸出取引の防止」これの目的のためにするところの共同行為といふのははつきり書かなくとも、これは当然袖占禁止法などには触れないのです。そういう解釈が確立されると、いふことでございましたので、法文上には明らかに除外といふことは書かなかつたわけであります。しかしこれは当然はずれるという解釈であります。

○山手委員 そういたしますと、こうの違反については、輸出組合は当然に制裁能力があつて、拘束することができるということで、そういう協定に違反をするようなものは当然に除名をすれるとか、あるいは過意金を徴収すると

か、そういうふうな強制力を行使する

ことが当然にできる。こうじうように解釈をしてよろしいのでござります

か。○牛場政府委員 この第十一條の第一項の行為でございますが、これはもちろん合理的な範囲にとどまるべきものでございまして、その範囲の程度いかんにつきましては、通産大臣、公正取引委員会等におきまして基準の決定その他他の際あるいは組合の設立認可その他に認めます。○牛場政府委員 他の際に認定するわけでござります。

合規的な範囲において行ところのそいう基準などに対しまして、違反した場合にはおきましては組合の定款によりまして、そういう処分ができるといふことになると思います。

○山手委員 この点公取の委員長さんからも御説明願います。

○横田(正)政府委員 ただいま通産局长からお答え申し上げました点につきまして、あら少し補足して申し上げた

いと思ひますが、ただいまの十一條の一号もそうでござりますが、「二号につきましても、結局この二つの行為につきましては、第二項の場合と違いまして、これに基きますいろいろな行為が

当然に袖占禁止法や事業者団体法の適用除外になるわけではないでございまして、ただこれにわざ／＼適用除外

を認めませんでした理由は、特に適用除外をいたしませんでも、今お示しになりましたような関係の事柄は、事業者団体法や袖占禁止法に触れることがない

のであります。○牛場政府委員 この「不公平な輸出取引の防止」ということなので、この第十一條にあります「不公平な輸出取引の防止」ということなのです。一度お伺いしてみたいと思ひますが、この第十一條にあります「不公平な輸出取引の防止」ということなのです。

○山手委員 まあそこあたりのところが非常に問題になるおそれがあると思ひますので、これは後ほどさらによく

おきましても、結局この二つの行為につきましては、第二項の場合と違いまして、これに基きますいろいろな行為が

取上げて行くか、あるいはそういうふうなものも全部含めて、わが国が参加

らぬとあるから、この輸出組合がそういう方面についても協定をしておる建前で臨んでおられるのであります。○牛場政府委員 たゞそ

うらしい、この点については当然に袖占の規定を排除して行くんだといふことになりますが、いわゆる考え方でござりますが、い

が、この尺度についてはいろ／＼疑義がある。これはぜひこの際公取の委員長さんの方からも明らかにしておいていただきたいと同時に、そういうことになると輸出組合の方でいろ／＼不公平な制裁を加える、わざかな違反をし

ました場合に、ほとんど業者としては必ずしも事業者団体法あるいは袖占禁止法の問題にはなりませんが、たゞその制裁の程度につきまして、あまり苛

酷な制裁を加える、わざかな違反をしました場合は、この法案におきましては、この第二條の定義において書いた通りのものでござります。

○山手委員 そうしますと、この第二條に書いてある「国際取引における公正な商慣習」というふうなものは、どうぞやつてきめるのですか、何を基準に

おきましても、今お示しましたような關係で、ある程度の事柄はもちろん通常にできますが、度を越した場合にやはり法律上問題があると思ひます。

○山手委員 まあそこあたりのところが非常に問題になるおそれがあると思ひますので、これは後ほどさらによくおきましても、結局この二つの行為につきましては、先ほど申し上げましたように、リベートでありますとか、ないしはダンピングということがこれに反するということになるわけ

であります。なお個々に問題が起りましたときには、輸出取引審議会などに諮りまして、日本の業者に非常に不

当な損害なしし不利をこうむらせないのが、この「不公平な」ということは、これはどういう法の根柢に基づいておりませんが、貿易問題になりませんで、従つて貿易協定は袖占禁止法あるいは事業者団体法の適用除外の協定に関しましては特に規定をいたしません。なお一般的に申しましては、これは協定の方も同じような關係になつてゐると思ひますが、「貿易問題になりませんが、貿易協定までを認める必要はないのではないか」ということで、これが起るかもわからない、そういうことはどうなつて行くか、公取の方から御説明をお願いしたいと思います。

○横田(正)政府委員 ただいまの貿易協定の問題でございますが、これは実は十一條の二項の規定を設ます。これは協定の方も同じような關係になつてゐると思ひますが、「貿易問題になりませんが、貿易協定までを認める必要はないのではないか」ということで、これが起るかもわからない、そういうことはどうなつて行くか、公取の方から御説明をお願いしたいと思います。

○牛場政府委員 この「国際取引における公正な商慣習」が何であるかといふことにつきましては、先ほど申し上げましたように、リベートでありますとか、ないしはダンピングということがこれに反するということになるわけ

であります。なお個々に問題が起りましたときには、輸出取引審議会などに諮りまして、日本の業者に非常に不公平な輸出取引の防止といふこととなる場合があらうと考へるのであります。○山手委員 これは将来とも相当問題にならぬ、こういうことがあらうと私は思います。○横田(正)政府委員 たゞいまの貿易協定に關しましては特に規定をいたしません。なお一般的に申しましては、これは協定の方も同じような關係になつてゐると思ひますが、「貿易問題になりませんが、貿易協定までを認める必要はないのではないか」ということで、これが起るかもわからない、そういうことはどうなつて行くか、公取の方から御説明をお願いしたいと思います。

○山手委員 そういうのは、今日大豆の問題にいたしまして、あるいは紙の問題にしてなることがあります。○横田(正)政府委員 たゞいまの貿易協定なんかでわが国が加入をしておらないものがある、あるいは必ずしもわが国の商習慣とは一致しないものがあるのじやないかと思うのであります。○山手委員 もう少し具体的に申し上げますと、たゞいまお示しになりましたような関係の事柄は、事業者団体法や袖占禁止法に触れることがあります。○横田(正)政府委員 たゞいまの貿易協定なんかでわが国が加入をしておらないものがある、あるいは必ずしもわが国の商習慣とは一致しないものがあるのじやないかと思うのであります。○山手委員 もう少し具体的に申し上げますと、たゞいまお示し

では、結局は漁業法なり事業者団体法の、特に第五條の一號から八號までに書いてございます規定の解釈問題となるかと存します。

○山手委員 そこで私はお尋ねをしておきたいと思うのですが、通商局の方と公取の方と両方で御説明を願いたいと思うのであります。が、今問題になつておるところの、独立後効力を発生しております例の行政協定の問題とからんで來るのであります。が、この行政協定のとりきめによりますと、第八軍、朝鮮とか沖繩方面にいろいろ作戦をしておりまする部隊、海軍部隊、そういうのがいろいろ日本から物資を調達しておりまするが、直接調達をやつて、日本の機関を使っての間接調達はこれを認めないということに話をおちついたようであります。従つてこういう物資の調達のやり方をやるために、いろいろ過剰利得の返還問題とか、いろいろな問題がすでに占領下の時代からも起きておつて、日本の業者は非常に困つておる。実際の入札をする場合におきましてもずいぶんたたかれて、普通の業界では手が出ないような大量なものを入札をするために、日本の国内の市場価格以下の入札に押えて、たたいてーたたきまくつて、向うが実際には仕事をさせ、物資を調達をしておる。こういふ実情であります。ところがこれは実際は朝鮮部隊、あるいは沖縄部隊——日本の領土外のところの部隊が調達をしておるのありますし、しかも日本の法規でなしに、向うの法規に従つた調達をしておるのでありますから、私は当然これには輸出だらうと思います。輸出でござりまするから、そういう物資の調達にいまするから、そういう

応じておるのは、これは輸出取引法の規定に従つて業者、輸出組合は認定をして、日本の国内価格以下のところまで買手独占が行われておる。そういう地帶に對しては対処して行き得ると思います。私は考えておりますが、公取の委員長先生からまず御答弁を願いたいと思ひます。

○ 棚田(正)政府委員 ただいまの問題についてお答えいたしますが、そういう取引が本法に申しまする輸出になるかどうかは、実は私自身といなしましてはあまり自信のある御答弁を申し上げることはできないのでござりますが、一応ならないのではないかといふふうに申し上げられるのではないかと、思ひますが、この点は後に通産省の方からもつと明確なるお答えがあることと思います。なお輸出になるといたしましても、結局第五條の第三号のいわゆる「仕向地の輸入取引における競争が実質的に制限されている」ことになるかどうかという点も多少問題があるのではないかと思ひます。

なお多少余談になるのですが、さういう沖縄等への輸出でなく、御承知のように先般まで、講和前には内地におきまして軍に日本が納めますものにつきまして、われ／＼が見ましてもはなはだ不当と思われますような調達方法をやりまして、業者の側では対抗上やむを得ず一種の共同戦線を張るというようなことが相当ございまして、私たちの方にもそれが違反ではなかということで司令部あたりから問題をつけられました。まずこの点につきましては、相手の態度のはなはだ不當なもの

のにつきましては、形式的にこれを申しますと、明らかに違反になるというふうな場合におきましても、われわれ一つの処理といたしまして、事件として表向きに取上げて適當な処理をしておきまして、事件として上輸出として取扱つて来ておりません。ことに今度の行政協定以後は支那へも全部円貨になりますて、ますく輸出としての性質を帶びて来なくなつたのでありますので、現状におきましては、この法律はそれには適用はできません。たゞお話しのよう、日本の業者にとつて非常に不利な状況があることは事実と認められますので、主として行政協定の例外の合同委員会あたりを活用いたしまして、日本の事情に沿つたような買付をしてもらうようにアメリカ側に今話ををしておるところでござりますが、やはり來の問題といいたしまして、もしどうやらても輸出扱いした方が便利だということになりますれば、これはまたそちらいうふうに考え方をして行く余地は十分にあると思います。なお朝鮮とか油繩とか現地におきまして入札を行いますことになりますれば、これはまたそちらのものは全然輸出しやないという規定になるのかどうか。その点もおかしいとお思いますが、実際問題としては、これからそういう特需の関係といふもののがあるのかどうか。その点もおかしいとお思ふが、実際問題としては、これ

非常に日本の経済界の大きなウエイエーになつておるわけでありまして、それを簡単に從来こうであつた、占領下こうであつたから、あるいは田舎で生活をするのだからというふうなことで、輸出じやないとかなんとか言つては、輸出業者といふことは、私は軽率であろうと思います。実際問題としては、この契約の内容なり、あるいは物資の調達のやり方を見ておりますと、全部向の法律を適用するというふうな行為でありますし、輸出の形式を実際はつておると認められるものがたくさんあるのでありますから、私はその点について簡単に今のように片づけておることは迷惑であろうと思ひます。

それから第十二條でござひますが、十二條の組合員たる資格であります。が、輸出業者といふのが私は不明確なつておるよう思ひのであります。が、この輸出業者といふのは、どううところの者を輸出業者といふうお考へになつておるのか、少し御説をお願いいたします。

○牛場政府委員 輸出業者といふになりますと、第一には輸出業者といふ者といふ、これはもちろんのことありますが、それ以外に、たとえば成績のない者はどうかといふことあります。これもこれから輸出を始めた、といふ意を持つており、かつその能力を持つておるといふことあります。

が、これは輸出業者として取扱つてきたいといふふうに考えております。戦前の貿易面におきましても、大体はおいて輸出の意思と能力を持つておるものというふうに解釈しておると思ひます。

問題が起きますので、公取の委員長さんにお伺いしておきたいと思うのですがあります。事業者団体法においては、今そういう改正の願が起きておるのであります。が、独禁法について、少しこれを修正をして行くか、手心を加えて行くような処置をおとりになる考えはありますので、この際明らかにしておいていただきたいと思います。

○横田(正)政府委員 独禁法の改正につきましては、すでに御承知と存じますが、事業者団体法の改正と並びまして政府におきまして改正要綱をつくり、それを司令部に提出したのでござります。この独占禁止法の部分の改正の重要点は、御承知のように第四條と第六條のいわゆる国内及び国際関係の協定について、それが特に必要のある場合は、公正取引委員会の認可というような条件のもとに適用を除外する、これを適法と認めるという線を出しましたことと、それからあとは株式の保有や役員の兼任等につきまして、現行法よりも緩和をかかるというようななことをします。ところがこの政府の案に対しまして、当時の司令部におきましては、特にこの四條と六條の協定をある範囲において適法化しようといふ線に対しましては、非常に強い反対を申して参りましたが、しかもこれは出先の司令部とかあるいはその担当のESSの考え方ではなく、まつたくアメリカの國務省方面、アメリカ政府の方針であるとい

うようなことがわからましたために、政府におきましてもこの四條、六條の一番重要な改正点につきましては断念をいたしまして、その他の部分についての改正案を法案にいたしました。これを司令部に提出をいたしましたところが、その案に対しましても、たしかに昨年の十一月ごろだつたと思ひます、が、全面的にこれは認めがたいといふ非常にきつい意見が述べられまして、政府におきましてはそういうような關係からいたしまして、講和発効前はとうてい困難であるというふうに考えまして、遂に独占禁止法に関しましては案を出さずにしまつたわけでござります。のみならず当時の司令部としましては、なお手続規定その他において、現行の独禁法よりもなおこれを強化するようなことを考えて、いろいろございましたので、かたゞ一時期にあらずということをやめてしまつたわけでございます。公正取引委員会といたしましても、独占禁止法はすでに成立後ある時期にかなり大幅な改正をいたしましたので、かなり大転換をして、大体非常な不都合はない線になつておりますが、なおまだいわゆる形式的な予防規定と申しますか、そういう面におきまして若干行き過ぎの面があるように思われましたので、われわれとしましても独自の改正案を実は考えておつたのでございますが、今のような関係でどうも非常にその実現が困難であると、うよううなことで、これもそのままであります。

いて形式的な規定に關しましてある修正をいたしますことは、これは今後特にアメリカ方面で、独占法の改正については相當神經を使つておるようですが、ざいりますが、ある範囲の改正はできると思うのでござりますが、先ほど申し上げました四條、六條に、原則的に一般的な形で穴を開けるとということ是非常にむずかしいように思われますので、たとえば今回提案になりましたこの輸出取引法であるとか、そういうような特殊の問題につきましていろいろな一定の制限、制約のもとに、独占禁止法の、たとえば協定を違反とする規定の適用を除外をするとか、そういうような行き方で、いろいろな向き／＼によつて、日本の国情に合いまして違ったような修正を加えて行くのが、今後のこの独占禁止法の改正問題としては割合に通りもよく、またわれ／＼といたしましても、独占禁止法のいわゆる自由公正な競争の原則といふものを維持しながら、しかもこれを日本の国情に合しつつ運用して行くという面において、そういう行き方がいいのではないかと考えておる次第でござります。

品々において重大なる競争相手として立ち向つておるのでありますて、このまま放置しておくならば、私は重大な非難をされるようなことは困るであります。そのため業者自身についても少しだる——いろ／＼国際的に重大な非難をされるようなことは困るであります。事業者団体なりの修正を、さらにしようけれども、実際の運用の面においては手心が加え得るような禁法なり事業者団体なりの修正を、さらに今後真剣に取上げてやつていただきたい、こういふふうな気がするのであります。

うふうな声が、各業界から起つておる
ように思つております。これは今の局
長のお話と全然逆なのであります
が、たとえて言えば、陶磁器なら陶磁器自
体は、独立をして戦前も組合を持つて
おつたのだから、今後も輸出組合を、
雜貨と雜居するのになしに認めてほ
しいという話があるし、漁網の組合も、
漁網だけで組合をつくつてゐるのだから
ら、これは認めてほしいというよくな
い声、こまかくいえばメリヤスもつく下
もといふことで、際限もないよくな
いとなるのですが、そこまでは行けぬ
だらうと思ひますが、相当大きな業界
は単独に輸出組合をつくつてもらい得
るもの、こういうふうな考え方で動いて
おるようであります。これはちよつと
余の局長の御答弁と食い違つております
が、どうですか。

いたし、明日午前十時より運輸委員会との連合審査会、午後一時より本委員会を開会いたします。
本日はこれで散会にいたします。
午前二時四十二分散会